

新聞発表「参考」

二月二十五日
陸軍省新聞班

國際聯盟支那調査員等の人物及經歷

オバザバ

國際聯盟支那調査委員一行は二月十三日午前
十時桑港出發、米國「ダラー」汽船会社船「フ
レシデント クリッゲ」號にて日本に向つた。

横濱着は二月十九日の予定である。

該調査委員並其隨員、專同家の人物及
經歷は概要次の通りである。

一 調査委員

人 英國「リットン」卿

「リットン」卿 (Victor Alexander George Robert

Lytton) は印度總督たりし第一伯爵

「リットン」の嗣子にして一八七六年生る。

印度へ永く滞在せるが海軍省政務次

官 (Civil Lord of Admiralty) 一九一八年

在佛英國宣傳委員一九二〇年印度省

事務次官「ベンゴール」州知事を經て一

九二五年印度總督代理たりしことあり。

尚「サイモン」外相は「リットン」卿に對し松
平大使に對し同人は東洋の事に付て
は同情的理解を有し立派なる紳士
にして人格高き人なり又物事を廣
き見地より觀察し得る人にして決し
て「ベダン・テイック」の見解を下す人に非ず
殊に日本側に於て要求せらるる馬賊の
状態支那人の抗日「ボイコット」の調査又
は支那に善良なる政府の存在せざる
事等の觀察は「ベ・ゴール」方面に於て
同様の問題に付苦心したる人なれば却て
都合宜しかる可しと述へたる趣なり
尚著書としては「エドワード・ブエー」傳
初代「リットン」卿傳等あり。

又佛國「クローデル」將軍

「クローデル」(Henri-Edmond-Clavel)將
軍は年齢六十一歳一八七一年一月十三日佛蘭
西「ヴォージエ」(Voges)縣「バール・クニエール」シ

ジュール・モーズコット (Jaulmes - Sur-Maulotte)
に生る。陸軍殖民歩兵科の出身にして歐洲
大戰間佛蘭西本国及バルカン地方に於て
戰役に從事せし外は戰前戰後共に殆ど
常に殖民地にて勤務し佛国有数の殖
民地通なり又日露戰爭後支那派遣軍參
謀長として約三年支那に於て勤務し殊
に大戰後佛領印度支那軍司令官たりしこ
とあるを以て極東殊に支那に対しては相
當知識を有するものと認めらる現在本国
に在りて殖民地防禦諮詢委員會議長、
軍事參議官、殖民部隊兵監の要職に在り。
尚且下は軍縮會議準備に鞅掌し居る由に
て評判好き將軍なり。過般大演習の際は統
監として我陸軍武官等に特に好意を示
したる趣あり。

先年我方の斡旋に依り渡日し滿洲其他
我々殖民地を視察歸來者に関する著述

を爲したる「モンシヤルビル」教授の最近の
ワグネル將軍と会談せる際の印象に依れば
將軍は (intelligent ponderer) に見受けら
れ何等日本に対し不利なる先入主を有せず
事態を良く了解し調査委員の任務は
法律論や理窟に囚はれず事實を正しく觀
察するに在り且調査は支那全体に亘るへ
きこと勿論なるも短期間内に十分なる視
察を爲すこと不可能なるべきかと述へ頗
る日本に対し好意ある態度を示し居た
る由なり。

3. 米國 マッコイ將軍

「マッコイ」將軍 (Frank Moore McCoy) は騎兵
出身の錚々たる人材にして米軍中に於て
最も有爲なる將軍として知らる。

將軍は米軍の致馬占領以來「ワグネル」將軍
の片腕となり帷幄の機務に参畫し特
に「ワグネル」將軍の比島總督當時参謀長

として比島に於て果敢なる米化政策を決定
行し辣腕家たるの名を擅にせり、後或は
シカグワに動乱の際同国選挙監督官と
なり或は南米智利、秘露兩國紛争の調
停者となりて大に政治的手腕を振ひ其殊
功に依り米國議會は昨年特に拔擢進級
を大統領に提言せる結果少將に任命せら
るるに至れり。

同將軍は當て「ウッド」特使来朝の際其
陸軍隨員として渡日し帝國朝野の歡
迎を受け帝國軍隊其他を視察せり、
越へて「ウッド」比島總督幕僚長として
米國よりの赴任中上海に於て会々大正
十一年関東大震災の報に接するや曰
米關係の重大性を顧慮し獨斷電報
にて華府當局に對日最大限度の援
助を建言し且自己の責任を以て「マニ
ラ」に赴任せず直に横濱に乗り米國救済

委員の指揮をとれり而して其機宜の處置は
大に米國朝野の賞讃を博せり尚同將軍
は支那を旅行せることもあり比島に於ては
「ミンダナホ」島征伐に参加せること等ありて極
東に対する理解は相當深刻なるものあり
將軍の帝國に対する理解は相當良好に
して特に帝國陸軍に對しては深甚なる敬
意を有す。

將軍の経歴以上の如くなるを以て將軍の威望
は米軍中に於て高く昨年參謀總長の
交代に際し門閥政黨關係以外に於ては
米軍將校の大部は同將軍を以て總長
の後継者として推獎しありたり。

將軍は寡黙にして一見傲慢の如く觀せら
るるも本然は眞執事にして信念に富み好
將軍なり。

尚五日米國國際長官は出洲大使に對し「マツ
コイ」將軍は軍人と云ふよりも卓越したる手

腕を有する政治家にして是迄国際紛争調
停に關し経験もあり自分の最信頼し居る
人間なりとて極力從應せり。

ハ、独逸・ハインリッヒ・シュネ

「シュネー」(Heinrich Schnee)は殖民政策に
關し

て一九一三年獨領東部「アフリカ」總督とな
り歐洲大戰中も在任す現今人民黨代議
士として在外獨逸人同盟の委員長たり

其の性格は官僚的なるも其の経テの關係
(カ)

上殖民地問題に付ては今尚十分の興味を

有し其の著書に徴するに現在及近き

將來に於て世界何れの國に於ても國家主

義の減退を望む事不可能なりとの思想を

有し居る關係上日本の對支經路に付ても或

る程度 of 理解は之を有するものの如く現

に日本は人口増殖の爲必然的に支那に對し

帝國主義的の方策を執るの已む無きを得

ざる次第を述へ居る趣なり。

伊國「アルドロバンダ・マレスコッチ」伯

「アルドロバンダ・マレスコッチ」伯 (Contelungio)

(Aldrovandi Moreacotti) は純粋なる外務省系

統の人にして大戦中はソニに男外相の下に

官房長たり巴里平和会議には伊國事務

總長たり一九二三年以後公使及大使とし

て並爾然丁及伯林に在勤せり伯林勤

當時部下の書記官が暗號を竊取せら

れたるを隠し置きたる爲「ソツリニ」の

激怒に觸れ待命となり十二月十四日待

命期日満了せり

在事情の爲外務省内に同情者多く同人

の選定に休ては「ドロモンド」に異存ありし

を再應申入れの手段を執り決定を見

たる次第なり在伊國本参事官より其の

爲人を外務省側に質したる處同伯は実

際家にして「テオリミヤ」に非ず「アグリエブ

ル・パーソン」なるも而も一種の「パーソナリチイ」

を有する人の選定は日本に好都合と信ず
と告げたり。

二 随員

1. 書記長「アース」(Robert Haas)

佛國人、國際聯盟事務局交通部長、年
齡四十二才、佛國土木省出身、一九三一年
中華民國政府より交通改良事業調査
の爲招請を受け渡支せることあり。

2. 「ジャレール」(M. C. Chauvener)

伊國人、國際聯盟事務局情報部員

3. 「ポルト」(Adrianus Pelt)

和蘭人、國際聯盟事務局情報部員、
年齢四十一才、

4. 「ゴツツェ」(H. V. von Klotze)

独逸人、國際聯盟事務局情報部員

5. 「ハスチエホフ」(Vladimir Pastukhov)

「チエコスロバキヤ」人、國際聯盟事務局政

治部員

三、専門家

1. 法律専門家

「ウォルター・マニング」(C. Walter Manning)

米國人、マスター・オブ・アーツ、「ドクター・オブ・
ファイロゾフィー」、「ミネソタ」大學教授、極東
通にして滿洲に關する著述を爲せり

一九二九年第三回太平洋會議及一九三一年
第四回太平洋會議に出席せり、

目下北平滞在中。

2. 鐵道専門家

「ハイアム」(T. A. Hiam)

加奈陀人、元聯盟交通部員、現在加奈陀
アシヨナル鐵道会社員。